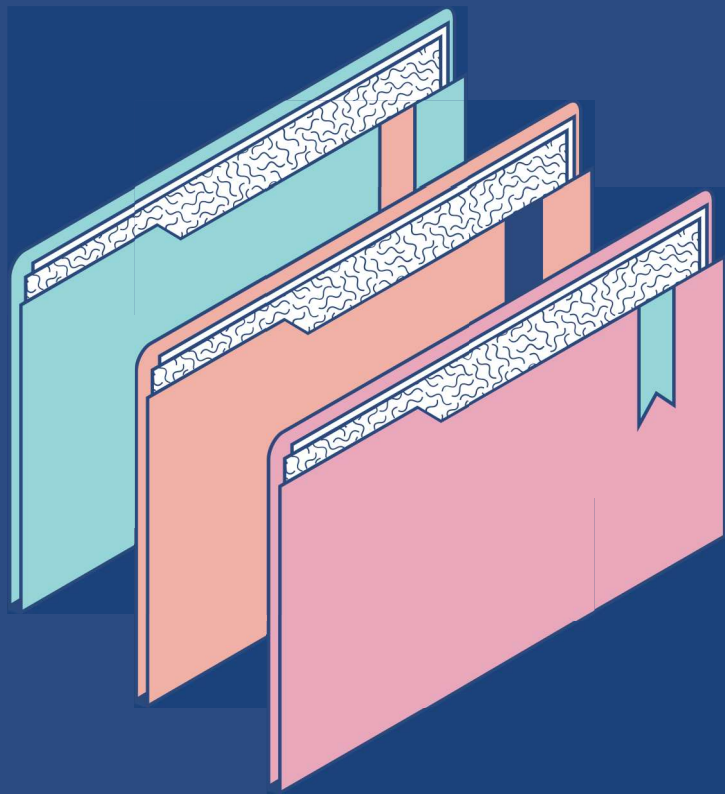




バス置き去り防止策

楽々はかるくん α

日々の習慣で、子供たちに「安全」を。
保護者に「安心」を。



本製品の 意図

なぜこの製品を制作したか。

- 未曾有の危機が重なる中で何ができるか。
- テクノロジーの力で人々の幸せに。
- 自分達ができることは何か。
- 健やかで安心できる日々の下支え。

CONTENT

1 ————— 2 ————— 3 ————— 4

取り残し事故 の実例

実際に起きてしまった事故とその背景を紹介。

事故の発生を 誘発する「現状」

全国の子どもを乗せて車を運転するドライバー2,652名と、子供預かり施設で送迎を担当する267名を対象として行われた実態調査をもとに紹介

本製品の機能紹介

本製品が実装している機能のご紹介
価格のご紹介

質疑応答

気になる点がございましたら、気兼ねなくお尋ねください。

頻発するバスでの 取り残し事故

バスでの取り残しは命の危機に
直結する極めて危険な事故

2021年7月の事故から1年余りで、、、

「バスの中に取り残される」というあまりにも衝撃的な
事件から約1年全く同様の事故が起きてしまった。

意外と身近に起きている「取り残し」事故

全国の子供を乗せて走るドライバーの約30パーセントが
バスに子供を取り残した経験があり、直近一年では5人
に1人が取り残した経験があるという結果に。

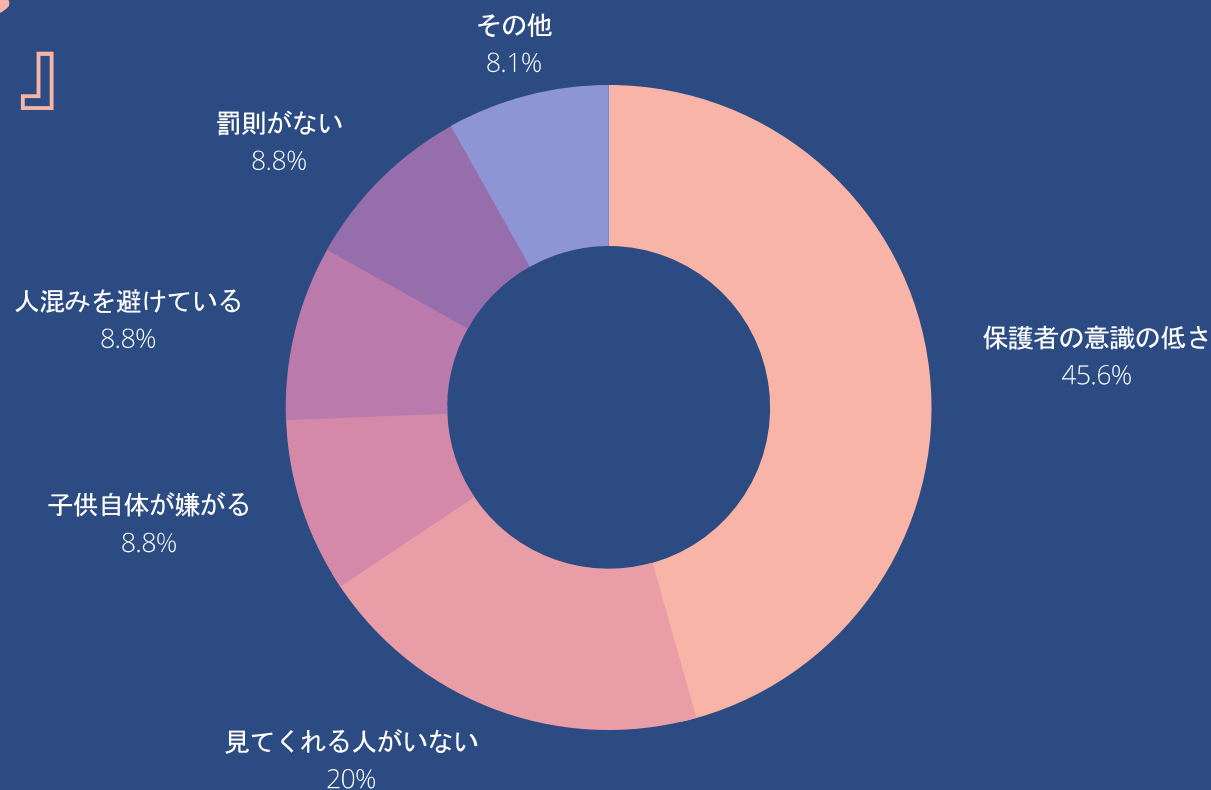
2件の死亡事故後にも同様の事故未遂が頻発

9月の半ばに沖縄県糸満市、11月には埼玉県の特別支援
学校、今月上旬には川崎のスイミングスクールで同様の
事故未遂が発生している。

『なぜ取り残し事故は起きたと思いますか？』

子供預かり施設を取り巻く現状

施設運営側が作用できる要因としては、やはり1番に「人手不足」が上がる。現状として、運転手や、引率の保育士が取り残し防止に努めるが慢性的な人手不足から限界がある。



<出典: 三洋貿易 『自熱中症事故につながる「子どもの車内置き去り実態調査」結果を公表」>

今、提案されている ソリューション

私たち同様、一連のショッキングな事件を受け、様々な解決策を各所提案しているが、それぞれに決定的な機能的欠如が見受けられ、人的及び金銭的資本に一存する部分が多く、汎用的であるとは言いづらい。

取り残し防止ボタン

実際に推している間は、子供たちから目が離れることになる。一瞬の油断で大人の想像する範囲を裕に超える行動を起こす子供に関わっている以上これでは本末転倒である。

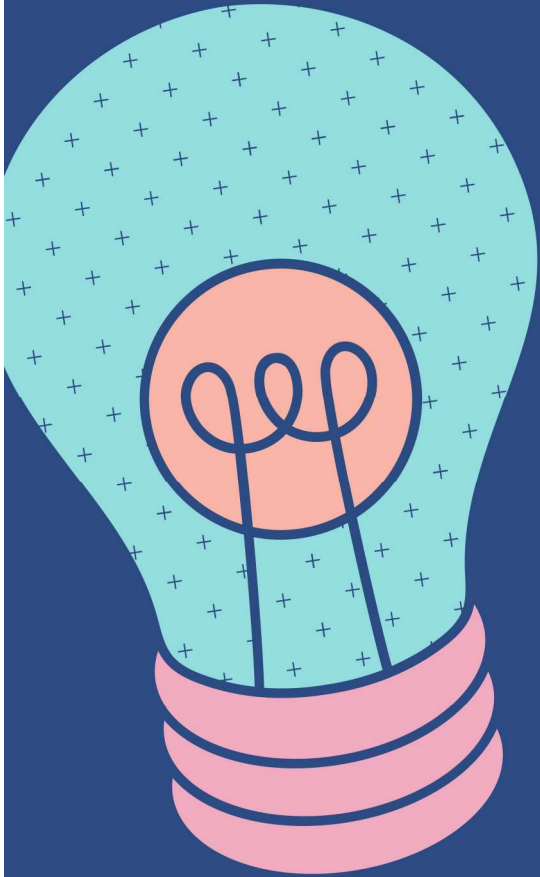
人体認識型カメラ

完全に死角になっている部分では認識できない。カメラが壊れることや整備することは考えているのか。費用が高く、金銭的な敷居が高い。

「子供預かり施設向け 包括的アプリケーション」

現在、一番導入されている解決策だが、包括的なサービスになっている為、操作性が悪い。煩雑な記録になっていることも多く、信憑性に欠ける。





Q: 何が求められているのか。

A: 職員の通常業務の負担にならない。

通常業務が激務である関連職員の負担にならないことが「習慣化」するために不可欠だと考えます。

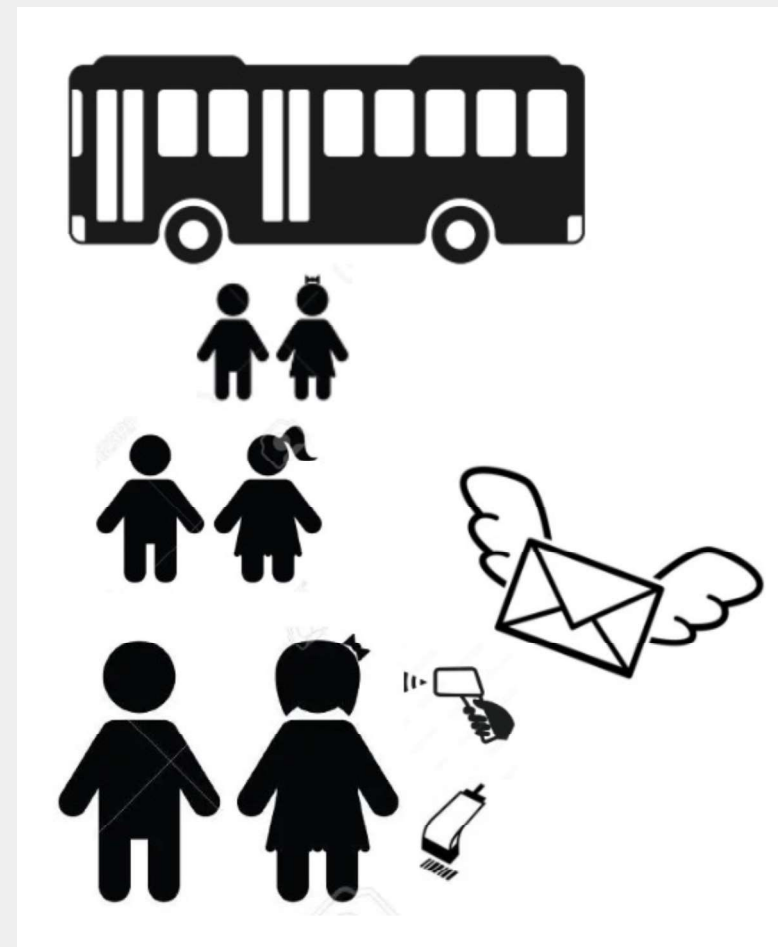
A: シンプルな「仕組み」で正確な「リスクヘッジ」

「手間取らない」「見やすい」「行いやすい」など
どのような些細なストレスでもクリアしていくことが、毎日行うルーティンワークには不可欠。

バスの取り残し基本機能

乗車時に検温するとともに子供を識別することで、バスを利用しているかどうか瞬時に把握することができ、降車場に生徒の下ろし忘れをなくします。

また、降車時に子供を識別する際に事前に登録しておいたメールアドレスに通知を送ることで保護者の皆様にも安心を届けます。



なぜ「検温」なのか。

- 1、各種感染症の予防を数値的に解析できる。
- 2、断続的な検温では意味をなさない。
- 3、数値の信憑性が担保されていない。
- 4、数値が一定化されており、各個人への対応力が低い。





質問は ありますか？

ご意見やご感想など、
本製品に関するフィードバックをいただければ幸いです。

質問は ありますか？

質問を送信してください！新しいことを
学べていただけたら幸いです。

